



# 「医学」を勉強しただけでは、「よい医療」は出来ない

立川相互病院

小児科医 奥野 理奈先生



奥野先生は、2010年に千葉大学を卒業後、立川相互病院に入職。小児科医として働いています。医学部1年生のときから東京民医連の奨学金制度を利用し、奨学生活動に積極的に参加していました。今、医師として働いているやりがいや学生時代のお話を伺います。

## 一 医師を目指した理由を教えてください。

小学生の頃から子どもに関わる仕事がしたいと思っていました。中学生のころ、夜間を中心に救急外来での対応が困難で、受け入れをいくつもの病院に断られる「救急車のたらいまわし」が全国的に問題になっていました。背景のひとつには医師不足があると聞いて、それなら医師になって役に立ちたいと思ったのがきっかけです。それからずっと医師になる事を目指してしました。

高校2年生の頃、代々木病院で一日医師体験をしました。患者さんインタビューをおこなった事を覚えています。元ダンスの先生だったという高齢の患者さんでした。病気の話だけでなく、その人のそれまでの生活やお仕事のことなど色々な話を聞くことが出来ました。あらためて医師になりたいという想いを強くしました。

## 一 奨学生になったきっかけは何ですか？

医学部に合格し、家の近くの立川相互病院で入学前体験をおこないました。その時の内容は小児科の先生に同行するものでした。診察の雰囲気がとても素敵だったのでよく覚えていますが、小児科にくる子どもはもちろん、親御さん

からの信頼があることも伝わってきたし、何よりもその先生が一番楽しそうに診察をしていました。自分がやりたい小児科の姿がここにある！という衝撃をうけました。この体験をきっかけに奨学金制度を利用する事を決めました。

## 一 奨学生活動では、どんな事をしたのですか？

初めて「奨学生ミーティング」に参加したのは入学前の3月だったと思います。大田病院とその地域でのフィールドワークでした。大田病院のまわりは町工場が多い地域です。患者さんであり、住民であり、そこでずっと働いている人たちの地域だと感じました。フィールドワークで訪問した先で、「町工場のおじさん」が「大田病院は俺たちがつくったんだ」というお話をされました。地域住民と医療者が一緒になって病院をつくるということに大変驚きました。病院だけでなく、その地域の健康づくりをおこなうという地域住民による「共同組織」の存在を初めて知ったのも印象に残っています。

他にも「医学生をつどい」に参加しました。全国の医学生が集まって、民医連のことだけでなく、自分がどんな医師になりたいかという医師

像について語り合い、机上では学べない医療や社会の現場で起こっている問題について学び、ディスカッションすることを楽しめる場でした。

「奨学生ミーティング」でも「医学生をつどい」でも、共通する楽しさは、さまざまなテーマを深めて他の医学生とSGD（スモールグループディスカッション）をして深まっていくことだと感じました。自分ひとりで学び深めるのではなく、そのことを色々な人の意見や思いと重ねていけることが貴重な経験でした。学年があがっていくと参加するだけでは物足りなくなると、もっと多くの仲間をつくりたいと主体的に作る側になっていきました。

また、大学は千葉にあったので、日常的に千葉民医連の学生サポートセンターの活動に参加していました。ランチやディナーといった食生活サポートも魅力でしたが、地元の医学生や医療学生の「たまり場」といった雰囲気が好きでした。



医学生時代・患者さん訪問インタビュー

## 一 奨学生活動の魅力は何ですか？

「水俣病」や「原爆」のことなど奨学生活動ではさまざまなことを学びました。水俣病も原爆も過去のことではなく、いまを生きている一人一人の生活とつながっていると実感出来ました。教科書には載っていなかったことが現地にいったからこそ分かる、そういう機会がいっぱいありました。

奨学生活動で大切だったのは、直接現場に行くこと、直接お話を聞くこと、これらを通して学べたことだったと思います。

## 一 医師として働きがいはなんですか？

患者さんにとって本当に大切なことはなにかスタッフと一緒に考えながら医師として追求出来ることでしょうか。医師としての働き方、キャリアの形はいろいろあるけれど、私は必要とされている事に力を発揮したいと思っています。今、子どもたちは「貧困」「虐待」とさまざまな問題を抱えていることも多いです。病気だけでなく子ども達の背景や環境も含めて地域密着の小児科医として、生まれた子が大きくなるまで診つづけたいです。

今後「発達障害」についても関わっていきたいと考えています。民医連では、お金にならないかではなく、地域に求められている事を取り組める環境があり、働きやすいです。

## 一 医師を目指す学生さんへのメッセージを

医師の仕事はさまざまな価値観・死生観をもった患者さんに寄り添い、よりよい選択をするということだと思います。患者さんに寄り添うとはどうしたらいいのか、答えはありません。私は、奨学生活動をとおして、困っている患者さんに医療として出来ることはなんなのか、寄り添う医療とは何かという「基礎」を学んだと思います。それが今に繋がっています。

医学を勉強しただけではよい医療は出来ません。ぜひ、さまざまな機会を通して医療の現場を体験してください。

